

☆ 中 国

化繊設備 2018～19年のレーヨン短繊維の生産能力見通し

中国化繊情報網によると、2017年の中国のレーヨン短繊維の生産能力は年産400～405万トに達している。2018年には新たに年産60～72万ト分の新規生産能力の稼働開始が計画されており、2018年末の中国のレーヨン短繊維生産能力は最大で年産477万トに達する見込み。

生産能力が拡大する一方、2018～19年にかけて中国のレーヨン短繊維の差別化比率は向上する見通し。例えば、吉林化繊は2017年に年産6万トのリヨセル繊維のプロジェクトを立ち上げた。

2017年9月、中国工業・情報化部は、レーヨン繊維業界規範条件とその管理暫定施行方法を実施。この二つの文書では、中国のレーヨン短繊維工場の設備能力は年産8万トを下回ってはいけないこと、また製品の差別化率が30%を上回ることを規定している。もし、この規定が2018年以降、厳格に施行された場合、基準に満たない企業は工場閉鎖するか、生産能力を拡大するかの問題に直面するほか、質的及び構造的な向上が迫られるとの見通しである。

業界の専門家によると、一般的にいえば、生産能力が拡大する年の価格は弱含みで推移する傾向にある。現在、中国政府の環境保全、安全への厳格な対応を考慮すると、2018年にレーヨン短繊維の大幅な生産能力拡大計画があるとはいえ、環境問題などによって、計画が順調に進まない可能性があること、苛性ソーダ、硫酸、二硫化水素などの原料関連価格が高値にあること、川下の紡績業界の2018年の生産能力拡大計画が限られていること、などから、2018年の新規生産能力の稼働開始は、老朽設備の淘汰と同時に進み、市場全体のレーヨン短繊維の生産能力の拡大規模は抑制され、薄利の水準で安定する見通し。

また、川下の紡績業界では、レーヨン短繊維の差別化比率の向上に伴い、2018年には構造調整が進み、立ち遅れたレーヨン紡績企業も淘汰に直面する見通し。

さらに、中国政府の「一帯一路政策」の動きに合わせ、レーヨン企業は、海外工場、海外市場への進出を加速させることも予測される。